

日本フンボルト協会 2020年度第2回常務理事会 議事録

日時：8月29日（土）14時から17時

形態：テレビ会議

出席者：伊藤理事長、浅田副理事長、西川副理事長（関西支部長）、伏木先生、広渡先生、居城先生（北海道支部長）、梶先生、河野先生（九州支部長）、岡林先生、坂越先生（中四国支部長）、須田先生（東北支部長）、高橋宗五先生、高橋義人先生、高山先生、高橋輝暁先生、種村先生、鏝田先生
関映子（事務局）

《議題》

（1）本年度の総会について（報告）

1）協会 HP 掲載による審議事項の回答（承認）について

前回の常務理事会で承認された、総会審議事項を協会 HP に掲載し、会員からのメール返信で諾否を確認する件について、理事長より、会員からの承認結果について資料に基づき説明があり、審議事項については、以下のように承認されたことが報告された。

1. 2020年度活動方針

承認 → 117名 不承認 → 0名

2. 2019年度決算・2020年度予算案

承認 → 117名 不承認 → 0名

3. 日独共同研究奨学金基金と財政安定化基金の会計について

承認 → 116名 不承認 → 1名（理由：上記基金会計の内容が不明。）

4. 監事の推薦について

承認 → 116名 不承認 → 1名（理由が不明）

事務局からのコメント：

- * 協会 HP に掲載資料が掲載されており、会員が資料を参照しにくい点などがあり、それらの点についてはニュースレターで補足説明等行う。

質問：不承認回答者への対応は？

⇒審議事項3：資料を送付。 審議事項4：名前が不明のため対応不能。

（2）日独共同研究奨学金について

1）2021年度募集要綱について（日本語及びドイツ語）

- * 理事長より資料に基づき説明され、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、日本における共同研究については、弾力的に運用できる旨を、特例措置として実施要綱に追記することになった。
- * 要綱（ドイツ語版）については、上記の追記部分について、DAAD 東京事務所のネイティブスタッフによるドイツ語のチェックを受けたのち、フンボルト財団 HP に掲載依頼をすることになった。

2）採択研究題目のドイツ語について

今年度、採択された研究題目のドイツ語について、申請者から、改めて提出されたドイツ語題目が報告された。なお、次年度からは、採択された研究題目について、日本語およびドイツ語または英語表記の提出を求めることになった。

意見交換：

申請書の段階から日本語とドイツ語の併記を求めるか、採択後にドイツ語題目の追記を求める現状の方式を維持するかについて意見交換。

- * 審査の際に technical term に原語がついているほうが分かりやすい。
- * 審査に際して、現状でも問題はない（特に理系からはこの意見が主）。
- * 理系では英語の可能性もあるので、その可能性を排除しないように、ドイツ語または英語併記としてはどうか。

3) 2021 年度奨学金選考委員会について (西川委員長)

西川委員長から資料に基づき、上記選考委員会委員について提案があり承認された。なお、伊藤理事長から、長期間、同一審査員による審査を避ける意味でも、2022 年度については、選考委員の入れ替えを検討する旨の発言があった。

4) 奨学金応募者を増やすための方策について (意見交換)

申請件数の減少傾向が認められることから、意見交換を行い、以下のような意見が出された。

主な意見など：

- * Zoom シンポジウムの際にも必ず、日独共同研究奨学金の応募を勧める。
- * DAAD 友の会の若い世代などに共同研究への参加を呼びかける。
⇒ 日本フンボルト協会会員が申請者となるが、DAAD 関係者が共同研究者に入るのは構わない。
- * 若手研究者の定義は？—学位取得何年という定義だったか確認したい。
⇒ 年齢は明記していないが、学位取得 10 年以内が応募要件。
- * 現在の募集要項でも修士号があれば奨学金対象である。従って、博士後期課程の大学院生でもよいと読める。それをもう少し強調して表現してもよいのではないか。
- * 申請希望者 (あるいは関係教員) が、現役を引退した Humboldtianer に依頼して申請する方式も良いのではないか。
⇒ 但し、本奨学金の企画段階での懸念として、理事以上の役職者からの申請は控えるという暗黙の了解があった。
- * ニュースレターに 2020 年度の採択結果を掲載する際に、2021 年度同奨学金について宣伝すべき。
- * 日本ドイツ学会などの会員に、賛助会員となつていただいた上で、奨学金の応募も認めるのはいかがでしょうか。
⇒ 正式に協力関係を依頼する制度設計にすれば、ドイツとの研究活動に広がりが出てよい。
- * 理系の若手で申請希望者もいると思うが、招聘してケアするのは負担が生じ、申請へのハードルが高くなる。応募要件は、ドイツ側の若手研究者との共同研究であるので、来日を必須としなければ、理系にはありがたい。実際、今はコロナ禍で来日が困難である。
⇒ 企画段階では、来日を必須としたが、現状では、オンライン会議による共同研究もあり得る。少なくともコロナ禍が落ち着くまでは、特例措置として、来日を必須としないなどの弾力的な運用を検討する。
- * 共同研究を申請する Humboldtianer が見つからないときはこちらが紹介するのか？
⇒ 原則を維持するが、協会としても、必要に応じて柔軟に対応する。

(3) 同研究奨学金基金と財政安定化基金について (報告)

1) 上記募金口座の閉設と日本フンボルト協会寄附口座の開設について

三菱 UFJ 銀行青山通り支店 普通預金

口座名義：日本フンボルト協会寄附口座 代表伊藤 眞

- * 当初の目的を達した募金口座を close し、新たに、日本フンボルト協会寄附口座を開設した。今後は年会費とともに、ご寄付を日本フンボルト協会口座に振り込んでいただく。その後、寄付の部分だけを寄附口座に移管する。寄附口座に直接振り込んで頂くことも可能。

(4) Zoom 討論会 (7 月 4 日) について (事務局)

1) 参加者 (70 名) 及びログインについての技術的な問題

- * 81 名の申し込みがあり、実際には 70 名の参加を確認した。2 名が Zoom 未経験者であった。
- * 会員と認識できない参加者が 1 名あった。(会員であったのか否かは不明)
⇒ 今後、必ず申し込んだ会員名で入ってもらう方式をとりたい。
- * 技術的課題：挙手の仕方など、Zoom の使用法についての説明が必要。
司会者が挙手者を正確に認識できるようにすることも必要。

2) 寄せられた感想

- * ほとんど好意的な感想であった。

3) YouTube に掲載する件

- * 審議の結果、討論部分は非公開とし、話題提供の講演の部分だけをアップすることになった。

主な意見：

- * 討論部分をアップするのであれば発言者全員の同意が得られなければ公開はできない。講演については、依頼をする際、公開について了承を得ているので問題ない。討論部分は、開催案内で公開を宣言しているが、非公開が望ましいのでは。
- * 討論については、今後は、司会者が、YouTube にアップすることの許諾を本人に得るようにして進めるべきであるが、実際には不可能。一応、案内状の中に、YouTube での公開を宣言している。
- * 講演の録画の際、参加者の顔が映っているところがある（数人）ので、個別の了承を得るか、スライドに置き換えるかなどの対応が必要。

4) 今後の予定（意見交換）

- * 概ね好評であったコロナ討論会の第2弾について、活発な議論の末、最終的には、新型コロナウイルス感染状況を、「社会科学と医学からのアプローチ」という企画で、以下の要領で、年内を目途に実施することになった。また、まずは、参加者は日本フンボルト協会会員とし、講演者については、協会会員に限定しないという方針で進めることになった。

担当：廣渡先生（とりまとめ役）、西川先生、高山先生

テーマ：「科学と政治」（仮題）

日時：年内の開催を予定

(5) 本年度の支部活動について（助成金について、各支部の会員データについて）

各支部からの意見聴取の結果、現状では、各支部とも支出を必要とする企画を行うことは難しく、现阶段では今年度の助成金申請はなし。今後、必要に応じて申請するのは差し支えない。

事務局より：支部あてに会員データ訂正情報が届いていれば本部にも教えてほしい。

(6) ニュースレターの発行について

本日の承認事項（総会報告など）と以下を掲載することが報告された。

1) 年会費のお願い

2) 本協会への寄付（日本フンボルト協会寄附口座）のお願い

3) その他

7月1日の関さんの連邦功労十字章の授与式（ドイツ大使館）について報告を掲載。

(7) その他

1) 9月12日 Zoom ミーティングを利用したパネルディスカッションについて（西川副理事長）

現在、参加希望者30名。6月の総会で講演予定であった澤芳樹先生のご講演。高橋政代先生にも講演をお願いした。

概要：すでに数年前に iPS 細胞を患者さんに投与している。臨床応用研究助成のあり方、基礎研究とのバランスの問題などについてパネルディスカッションを計画している。パネラーの適任者がいれば紹介頂ければありがたい。

2) 日本フンボルト協会ロゴ作成について（事務局）

協会ロゴの作成状況について、理事長から説明があり、今後、事務局で日本フンボルト協会（HGJ）HGJ を図案化した原案を次回の常務理事会に提案する予定。

経緯：

ドイツ・フンボルト財団ロゴの横顔だけの使用は認められないという同財団からの回答を受け、本協会独自のロゴの作成を進めてきたが、その後、フンボルト財団から、同財団の横顔部分と文字部分、さらにフンボルト財団から支援されている表現（unterstützt von /supported by Alexander von Humboldt Stiftung）を明記すれば、横顔とその下の文字を使ってもよいとの返答があった。

意見交換：

フンボルトの横顔とその下の文字を、日本フンボルト協会のロゴとするか、HGJを図案化したマークを考えるか？日本フンボルト協会のHGJの文字が出てこないの、HGJのロゴを考えて、それと横顔を併記するか、などについて意見交換を行った。

主な意見：

- * フンボルトの横顔の上にHGJと入れてはダメなのか？
⇒ 財団の一体化したロゴに修正を加えることになるので、それは認められない。
- * フンボルト財団にサポートされているという文言については、本協会は、確かに財団のサポートを受けてはいるが、100%サポートされているわけでないので誤解されかねない。従って、HGJを図案化したものと、財団のロゴは別の箇所に出した方が良いのではないか。
⇒ 理事長、関さん（事務局）でHGJを図案化したものを次回の常務理事会に提案する。

3) フンボルト奨学金選考および日本人フンボルト奨学生の状況について

理事長より、フンボルト財団からの返答について、以下の説明があった。

- * フンボルト奨学金の選考は、従来通り行われている（年3回）。
- * コロナ禍を勘案し、ドイツに来なくても本国で研究を開始できるように柔軟に対応。
- * 研究活動開始前に行われるゲーテでのドイツ語研修もオンラインで実施可能。

フンボルト財団からの返答の邦訳を協会HPに掲載することになった。

また、今年度の留学説明会について意見交換を行い、以下の要領で開催することになった。

1. 本協会主催の留学説明会を、全体留学説明会と分科会（break out roomに分かれる）を同日にZoomオンラインで開催する可能性について、鏑田先生（留学説明会担当）を中心に検討する。
開催時期は11月末～12月初旬を予定する。その後、日程調整の結果、12月5日（土）に決定。
2. 各大学への留学説明会告知、ポスター作成などの広報ルートを用いて周知を行う。
3. 今回は、「フンボルト奨学金による留学説明会」を単独の形で開催する。

4) Humboldt-Kolloquim について（2022年11月17日から19日に延期）

理事長より上記の時期に延期されることが報告された。

5) 2020年度のシーボルト賞について

本協会の西谷祐子会員がシーボルト賞を受賞されたことが理事長より、祝意をもって報告された。受賞式は、10月8日（木）にドイツ大使館にて行われる予定。

6) 次回の常務理事会（オンラインで開催予定）は12月19日（土）14時から17時に開催予定。

（以上）